



発行:八幡市教育委員会 令和7年(2025年)11月21日  
URL <http://www.city.yawata.kyoto.jp/>

## 第 8 5 号

### おもな記事

- ◆八幡浜市との中学生交流 1・2面
- ◆これからの八幡の学校を考える 3・4面
- ◆八幡市文化賞・スポーツ賞表彰 5面
- ◆教育に関する相談及び不登校に係る支援 5面
- ◆寄贈 5面
- ◆子育て支援の取り組み 6面

## 中学生交流今年で10回目 八幡浜市と友好都市 協定を締結

令和7年8月19日(火)から21日(木)の3日間、本市中学生20人が愛媛県八幡浜市を訪問し、八幡浜市の中学生23人と交流しました。

八幡浜市は世界で初めて飛行原理を発見した「日本の航空機の父」二宮忠八翁の生誕の地である一方、八幡市は同氏が晩年を過ごした地であるということ、また「八幡」という地名と「やわた」の読みが一致しており、両市には非常に深い縁があるということから、平成25年度より両市の中学生同士の交流事業を開始。次世代を担う子どもたちが、異なる地域の歴史や文化、環境等を学び、自分たちの地域を見つめ直し、郷土に対する誇りと魅力を再認識することで、豊かな人間性や社会性を育む機会とすることを目的に交流を続け、今年で10回目の開催を迎えました。

今回は、交流初日である8月19日、同交流事業を礎として、大人も含めた市民間の交流への発展を目指し、八幡市と八幡浜市との友好都市協定締結式が行われ、両市の中学生は市民代表として参加。式典では、司会や互いの市の魅力を紹介するプレゼンテーションを



友好都市協定締結式の集合写真





地元漁師に教わりながら地引網体験を楽しむ生徒たち

行ったほか、協定の証明者として参加者の中学生全員がサインした署名の披露などを行いました。式典後は、地元の劇団による忠八翁の半生を描いたミュージカルとともに鑑賞し、複雑な時代背景のなかでも忠八翁が遺した功績やその偉大さについて学習。講演では、事業の参加者でもある八幡浜市の中学生2人と、八幡浜市大市長、八幡浜市教育委員会井上教育長も演者として登場し、舞台を盛り上げてくれました。



クイズラリーで二宮忠八翁ゆかりの神社を訪れる生徒たち

2日目は、朝から舌田地区の海に集合し、地元漁師らの協力のもと地引網を体験。生徒たちは、冷たい海水や砂浜に打ち上げられるくらげの様子にはしゃぎながら、力を合わせて一生懸命に網を引き、獲れた新鮮な魚は刺身や焼き魚にして、昼食としていただきました。その後のクイズラリーでは、忠八翁が幼少期によく遊び場になっていたとされる神社や、自身が設計した凧を揚げて実験していたという河原など、同氏ゆかりの地を巡りながら、各所で出題されるクイズを解いたほか、市民図書館内の郷土資料室では、模型飛行器や表彰状など数々の資料を見学。夕食は、現地の中学生や漁師がふるまう魚料理をいただきました。互いの市や学校生活の話を楽しみました。



ご当地キャラクターとともに笑顔で記念撮影をする参加者たち

3日目は、八幡浜市漁業協同組合の協力で、「八幡浜市水産物地方卸売市場」と「どーや市場」を見学した後、送迎式典が催され、両市の中学生代表がそれぞれ交流事業への思いや体験を通して得たことなどを発表。式典の終盤には、愛媛県と八幡浜市のご当地キャラクターも駆け付け、生徒たちは笑顔で自由に記念撮影などを楽しんだ後、おもてなしをしてくださった八幡浜市の中学生や職員の方々に見送られながら、別れを惜しみつつも帰路につきました。

来年度は、八幡浜市の中学生が本市を訪問される予定です。八幡市の魅力ある歴史・文化を体験してもらい、より一層両市の友好と信頼を深めていきます。

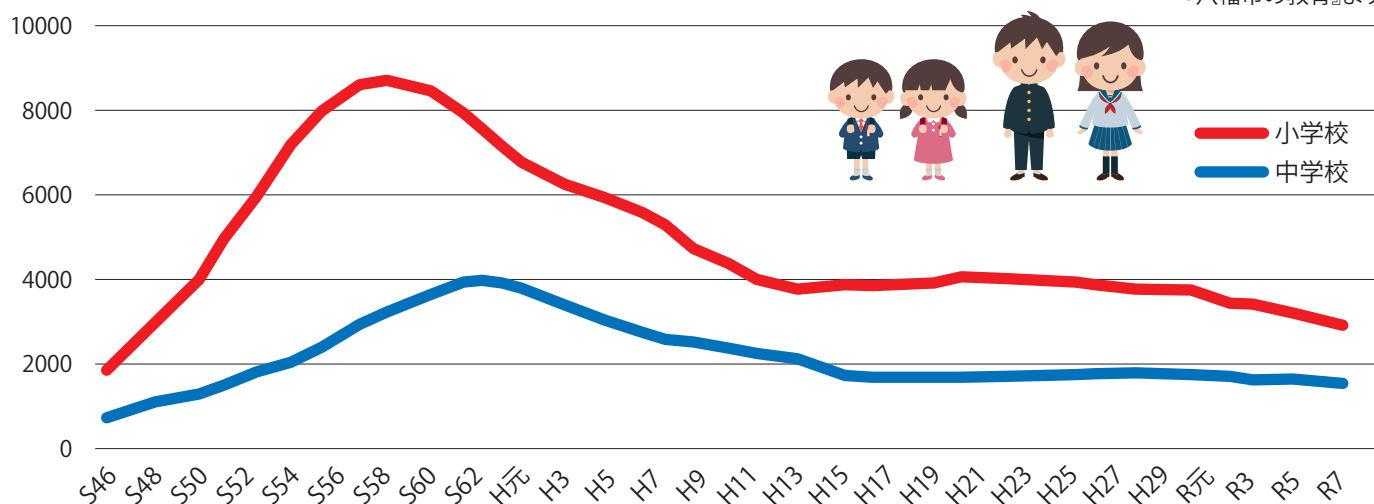
(学校教育課)

# これからの八幡の学校を考える

八幡市においても、少子化が進んでいます。また、学校施設の老朽化や教育環境の充実等の課題への対応が必要です。これからの学校を考えていくために、八幡市の状況や学校教育についてお伝えします。

## 児童・生徒数の変遷

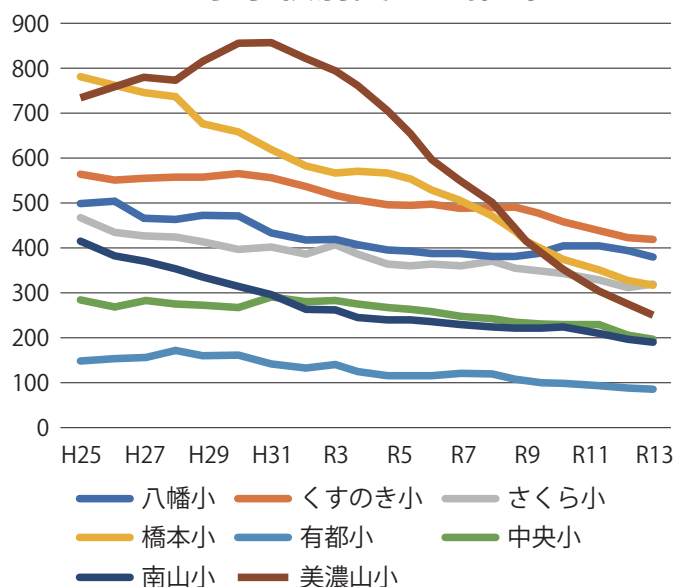
『八幡市の教育』より



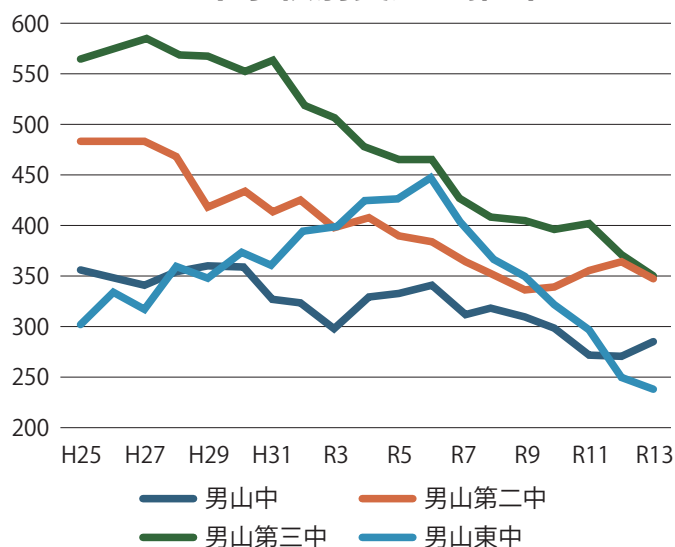
昭和40年代後半からの日本住宅公団による男山団地の整備が主因となって、全国屈指の人口急増となり、昭和46～61年に学校を新設してきました。児童生徒数は、昭和58年に小学校8,657人、昭和63年に中学校3,933人とピークを迎え、その後、少子化等の影響で、減少傾向に入りました。欽明台地区の整備に伴い、平成14年に美濃山小学校が開校し、小学校11校、中学校4校となりました。平成20、22年に小学校の再編、平成25年から中学校校区の再編を行い、小学校8校、中学校4校となっています。

今後も少子化は進行し、昨年度生まれた子が1年生になるときの各校の児童生徒数は以下のように推計されます。

## 小学校別変遷と推計



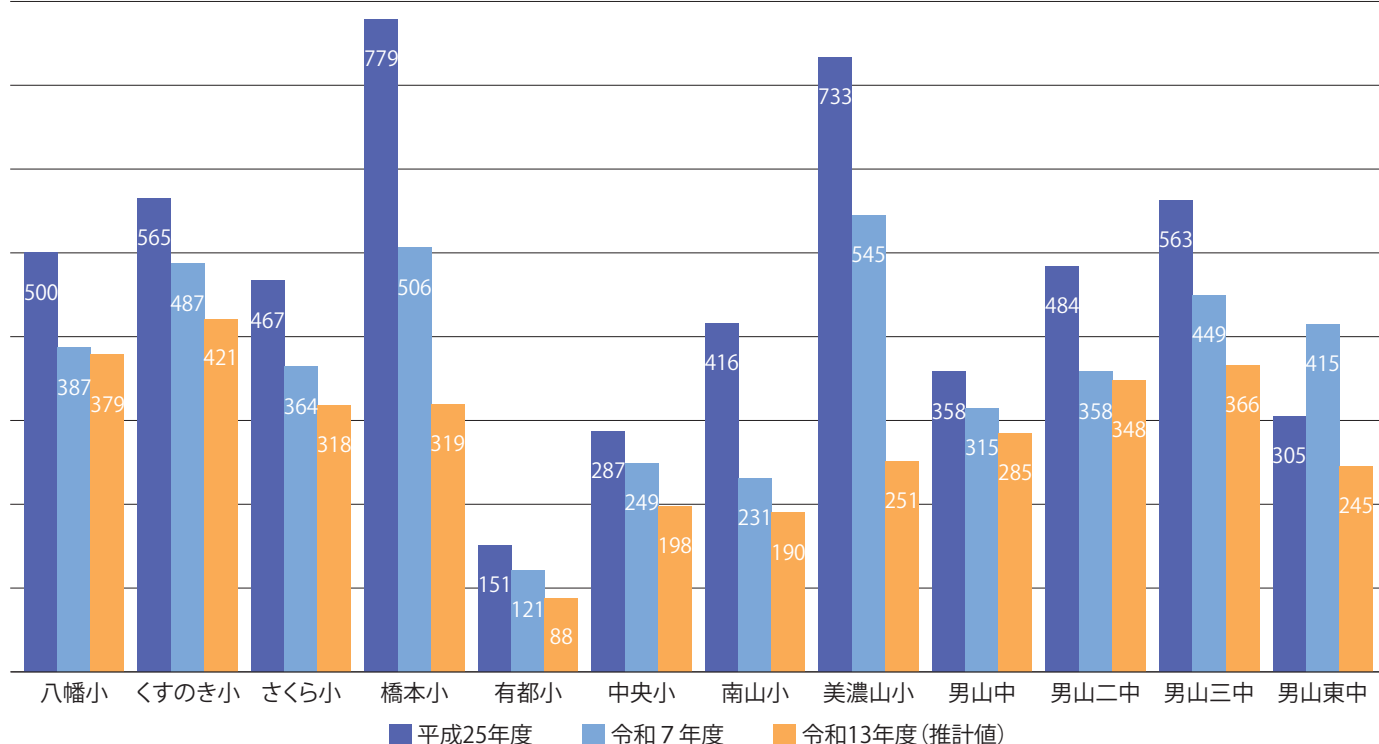
## 中学校別変遷と推計





現行の本市の学校体制となった平成25年度、現在（令和7年度）、昨年生まれた子が小学校1年生になる令和13年度（推計）の児童生徒数を学年学校ごとに比較してみると以下ようになります。

## 平成25年度・令和7年度・令和13年度推計の学校別児童生徒数比較



## 学校の適正規模・適正配置については、国は以下のように示されています。

義務教育段階の学校の目的は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことであり、学校では、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要であること等から、学校は一定の規模を確保することが重要です。また、学校は地域のコミュニティの核として、防災・保育・地域の交流の場等の機能を併せ持ちます。地域の実情により、小規模校として存続させることが必要な場合もあり、こうした判断も尊重される必要があります。

【公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に等に関する手引き 平成27年1月27日 文部科学省】

小・中学校は、通学する学校を校区として指定していることから、子ども達が地域に密着した形で地域で育てていただいています。また、地域にとってもコミュニティの核としての位置づけもされています。近年では、教育環境の充実の観点から、小学校、中学校を完全に一貫教育とした義務教育学校や中学校と高等学校の一貫教育である中等教育学校、学びの多様化学校、小規模特認校等が、制度化されています。そして、本市の学校施設は老朽化や維持コストの課題もあります。

教育委員会としては、初めから再編ありきであるとか一貫校ありきであるとかというのではなく、児童生徒や保護者、地域の方々と情報を共有し、学校教育に対する理解を得て、子ども達により良い教育環境を創っていくことが大切であると考えており、「広報誌くすのき」等を活用して、お知らせしてまいります。

市民の皆様と情報を共有する中で、よりよい八幡市の教育を創り出してまいりたいと考えております。

次回以降、近年の様々な学校種や、小規模特認校等の制度、小規模校のメリット・デメリット等、学校のコストなどについて、お知らせしていく予定です。

## 八幡市文化賞・スポーツ賞の表彰

令和7年11月3日（月・祝）八幡市文化センターにおいて、八幡市文化賞・スポーツ賞の表彰式が行われ、小学生・中学生が対象となるジュニア賞では、18人1団体の児童生徒が受賞されました。

受賞者は次のとおりです。

（敬称略・順不同）

### 【文化賞・個人】

▽山下 悠月（男山東中・絵画）

### 【スポーツ賞・個人】

▽内藤 翔太（中央小・柔道）

▽河端 日琴（南山小・空手）

▽辻河 三桜（八幡小・レスリング）

▽山本 瑛心（南山小・レスリング）

▽鷗野 咲幸（男山第二中・レスリング）

▽柳瀬 健心（男山第三中・陸上）

▽山田 琥太郎（男山第三中・陸上）

▽松井 暖々（男山第三中・陸上）

▽岩崎 陽向（男山第三中・陸上）

▽岩崎 雄一郎（男山第三中・テニス）

▽藤原 愛良（久御山中・剣道）

▽本庄 明莉（橋本小・ソフトテニス）

▽児嶋 俊仁（男山東中・陸上）

▽谷 柚嬉（男山東中・空手）

▽加藤 未彩（美濃山小・バドミントン）

▽行田 奈由（男山第二中・柔道）

▽奥崎 朝香（男山第二中・BMX）

### 【スポーツ賞・団体】

▽パンプキン（バドミントン）



（生涯学習課）

## 教育に関する相談及び不登校に係る支援

### 教育に関する相談

市内在住の幼児・小・中学生とその保護者の相談に、教育相談担当指導主事及びカウンセラーが応じます。

### 不登校支援

### 教育支援教室「さつき」

個の興味・関心に応じた活動や個の状況に応じた学習を通して、社会性を培うとともに、自立を促し、学校生活への適応や社会的自立を図ります。

市内在住で不登校の小・中学生が対象です。

### 【問い合わせ】

八幡市教育支援センター

所在地…八幡市男山笹谷2

電話…075-982-3001

時間…平日 9時～17時

※学校または教育支援センターに電話でお申し込みください。

※学校連絡アプリにて配信いたしました。パンフレットもご参照ください。

## 寄贈

- 株式会社京都銀行さまから八幡小学校に、壁掛け扇風機（40台）
- 京都新聞出版センターさまから市内小中学校に、書籍『曹貴裁という生き方』（各校1部）
- 八幡市老人クラブ連合会さまから市内幼稚園・認定こども園・保育園に書籍（各7冊）
- Daigasグループさまから市内公立幼稚園に絵本（19冊）
- Daigasグループさまから中央小学校放課後児童クラブに児童書（16冊）

（こども未来課）



## 10歳になりました！

子ども・子育て支援センターすくすくの杜は今年で開設10周年を迎えました。これを記念し、乳児・親子あそびの第一人者の「まっちゃん」こと町田浩志さんを招き、5月に記念イベントを開催しました。参加した96名の親子が「おひさまキラキラ」を歌ってイベントがスタート。まっちゃんのギターと歌に合わせたつながり遊びでは、新聞紙のシャワーなど、まさしく会場のみながつながるひと時を体験しました。曲の合間に、町田さんから「子育ては一人でしたらあかんよ。誰かに頼っていいんだよ」と励まされる場面もあり、会場にはギターのやさしい音色と親子の歓声が響きました。イベントのフィナーレでは、天井から色とりどりの風船が降り注ぎ、楽しい思い出の締めくくりになったことと思います。

すくすくの杜がこれからも子育てを支える居場所であり続けられるよう、様々な子育て講座やイベント等を開催し、多くの方々にご利用いただけるよう努めて参ります。



### パパの子育てを 応援する 講座開催



9月13日（土）子育て支援センターで「笑ろてるパパの子育て講座」を開催しました。親子8組（父8人、母4人、子ども9人）が参加し、賑やかな雰囲気の中で行われました。今回は、NPO法人ファザリング・ジャパン関西の吉田さん（ご自身も子育て中のお父さん）を講師にお迎えしました。講座では父親が子育てに関わる大切さや、家庭でのコミュニケーションの工夫について、体験談を交えてわかりやすくお話していただきました。はじめは緊張からぎこちない様子もありましたが、子どもの年齢や誕生日順に席替えをすることで自然と会話が生まれ、次第に笑顔や笑い声が広がっていきました。参加者からは「父同士の繋がりができてうれしい」「楽しかった」といった感想が寄せられました。

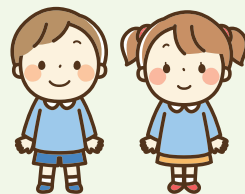
今後もこうした講座や支援の場を通して、保護者に寄り添い、安心して子育てができるような居場所にしていききたいと思っています。



### おむつ無料おてがる通園スタート！

令和7年9月1日より、保育園や幼稚園などの就学前施設において、紙おむつ等の無償提供を開始しました。

保育園等を利用するお子様が使用する紙おむつやおしり拭き等の衛生用品を保護者に代わって施設に直接納入し、その費用を市が全額負担することで、保護者がおむつを準備する手間の解消と経済的負担の軽減を図ります。



（子育て支援課）